

## 編集後記

本号では、文前代表理事、中野新代表理事からの挨拶があったので、私からも簡単な挨拶をさせていただきます。私のAA研との関りは、両代表理事には遠く及ばず、まだ新米であり、何で私が機関誌の編集長をやるのかと思っておられる会員の方もいらっしゃると思います。

昨年20年6月、文代表理事(当時)、松下理事、中野監事から本機関誌の編集長依頼がありました。私は本法人の会員、さらに理事になって間もなく、突然のご指名に戸惑ってしまいました。3人の先生方のお話を要約すると、次期のAA研の執行体制として、任期終了に伴う文代表に代わり中野監事が代表理事になるが一人で代表理事と編集長の二役は大変なので、私に編集長になって欲しいということでした。理事や会員のお名前も全員まだ把握していない段階で、年4回の発行の本機関誌の編集長は重荷であり、一度お断わりしようと思いましたが、かつて同じ大学の先輩教員であった中野先生からの強いご依頼や現在の職場の大学の名誉教授である藤田和子理事からのお誘いもあり、断れず引き受けさせていただくこととなりました。文前代表理事、長い間お疲れ様でした。コロナ禍の対面でない引継ぎとなりますが、中野代表理事と共に、改めてよろしく申し上げます。

さて、本号は引き続き、「コロナ・パンデミック時代のグローバル・サウス(3)」を特集し、一つの論文、二つの時評、文前代表理事と中野新代表理事の挨拶がそれぞれ掲載されています。

最初の鈴木論文は、前回に続き「<コロナ禍>後のパンデミックの世界(2)」におけるトランプ政権下の仕舞い方とイスラーム圏の変容」と題して、武者小路公秀氏の「Mモデル」を提示しつつ、(すでに退陣した)トランプ政権によるイランの二人の要人の殺害という仕舞い方に見るアメリカの世界制覇のあり方とシリアのアサド大統領が行った演説を紹介しながら、イスラーム圏との相互作用とその変容を検討し論じている点が興味深いです。特に、イランの英雄とされた革命防衛隊のソレイマニ司令官の暗殺は米国に強い不信感を招き、2月のバイデン新政権による米軍のシリアの新イラン民兵組織空爆はオバマ政権から続く米国の危険な中東政策の継続を思わせます。次回の「新たな世界システム」が期待できます。

ラミレス・ボニジャ時評は、メキシコにおける新型コロナウイルス感染防止策の失敗について、感染の始まり、大幅拡大の事実とその原因を時系列に説明し、ロベス・オブラドル大統領の失政を追求しています。パンデミックの危機から救われるためには、市民が市民としての責任を自覚することを奨励しており、私たち市民の自覚が問われています。

太田時評は、東南アジアにおける新型コロナ対応を概観し、ベトナム、フィリピンを例に国別のコロナ対応を比較しながら課題を明らかにし、地域内協力の現状と米中の関与の動きを検討し、東南アジアにおけるコロナ感染禍における政治運営や地域内協力体制の課題や米中大国からの自立のむずかしさについて指摘している点は注目できます。

なお、今回の本誌の編集作業は、長島怜央理事を始めとする編集委員で行いました。

(2021/3/2 編集長 重田康博)

### アジア・アフリカ研究

2021年 第61巻 第1号 (通巻439号)

2021年 1月25日発行 機関購読料：年間15,000円

編集人 重田康博

発行人 中野洋一

発行所 特定非営利活動法人  
アジア・アフリカ研究所

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-10

Tel&Fax: 03 (5972) 4740

E-mail: aaken@bz01.plala.or.jp

URL: <http://www.aaij.or.jp/>

印刷所 三和印刷(株)  
長野県長野市川中島町1822-1

本誌上で各論考の著者がその責任において述べた意見は、特定非営利活動法人(NPO法人)アジア・アフリカ研究所としての見解を表わすものではありません。

The articles in *Quarterly Bulletin of Third World Studies* do not represent the views of The NPO Corporation Afro-Asian Institute of Japan (AAIJ). Responsibility for opinions expressed in them rests with their authors.